



郷土資料室「ふるさとラボ」では、現在の新居浜市をかたちづくる要素の中の「岩石鉱石（地質学）」「考古資料（埋蔵文化財）」「民具玩具（昔の暮らし）」の3分野について理解を深めることができる資料を数多く展示しています。これらの一つひとつが、現在の私たちの生活へと繋がるものです。ぜひ資料を実際に手にとって、触れて、感じる体験をしてください。



古代の石器の材料としてよく使用されていた讃岐石（サヌカイト）。叩くと高い音で鳴ることから別名は「カンカン石」、部屋いっばいに澄んだ音色を響かせてください。

郷土資料室 ふるさとラボ

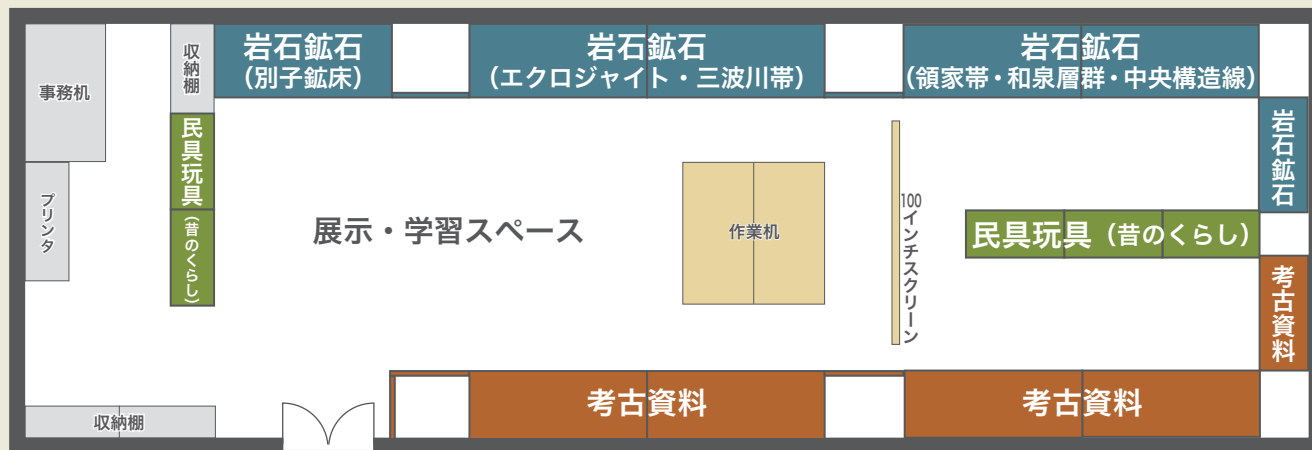
岩石鉱石エリア ～別子鉱床と四国山地のおいたち～

別子銅山は江戸時代の元禄4年（1691年）から昭和48年（1973年）までの283年間にわたって約3千万トンの良質な銅鉱石（銅量約65万吨）を産出し、新居浜市発展の基礎となりました。別子銅山の中でも最も大きな鉱床である別子鉱床は、含銅硫化鉄鉱が地中に3km以上も続く世界有数の大きな銅鉱床です。

このエリアでは新居浜の歴史を地質から解説しています。また、別子銅山に関連の深い銅鉱石、愛媛県の「県の石」にも選定されている別子のエクロジャイトや市之川鉱山の輝安鉱など、他では見ることができない貴重な岩石鉱石類約250点を展示しています。



含銅硫化鉄鉱（別子銅山）



民具玩具エリア ～昔の人々の暮らしを振り返る～

一般家庭向けの電気製品が市場に登場したのは昭和25年頃と言われています。このエリアでは、それ以前の「電気がなかった時代の暮らし」をテーマに、今ではめったに見ることができないような火鉢、湯たんぽ、行灯、かまど、羽釜などの古い生活用具を展示。電気を使えない時代の人々が暖や明かりを取るための知恵や、ご飯を炊いて美味しい食事を作るための工夫を、実際に使われていた道具から紐解いていきます。

また、お手玉やけん玉、凧といった昔の玩具、組み木パズルを始めとした知育玩具、日本各地の郷土玩具も展示しています。



置きごたつ

考古資料エリア ～ふるさとのルーツを訪ねて～

新居浜に人が住み始めたのは今から8000年くらい前だと考えられています。市内で確認されている遺跡の中で最も古いものが、現在の中萩中学校周辺にある横山遺跡で、約8000年前の縄文時代早期の土器が出土しました。また、西隣の大師泉遺跡（萩生）からは縄文時代後期の土器が採集されています。東田や星原などでは弥生時代前期の遺跡が見つかっており、その頃に広い範囲へ住居地が広がっていった様子が伺えます。このエリアでは縄文時代から平安時代までの出土遺物を通して、人々の暮らしや地域の様子を見ていきます。正光寺山古墳群から出土した遺物も展示しています。



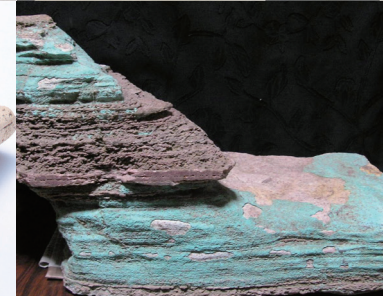
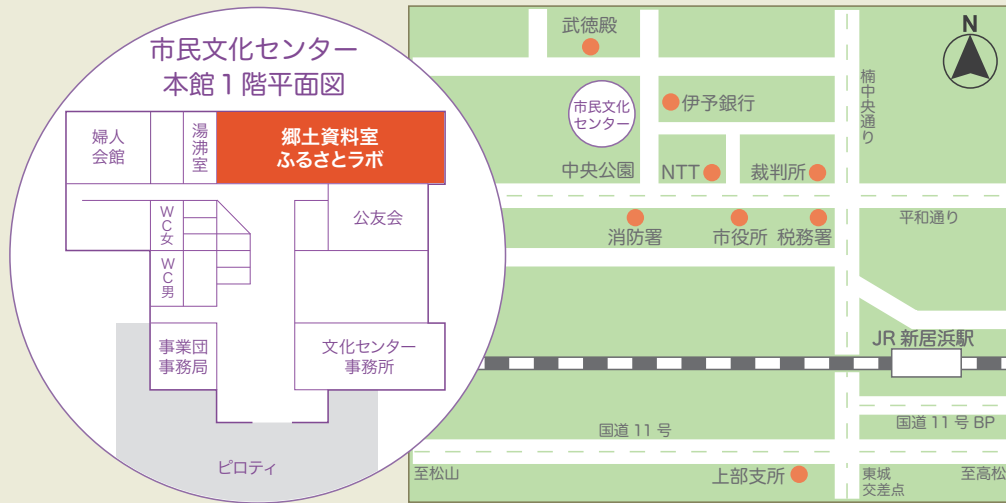
古宮縁塚 経筒（市指定文化財）

西条市の市之川鉱山から産出した輝安鉱の群晶（29cm×14cm）です。「県の石」にも選定されているこの石は、日本刀を思わせる美しい輝きを今も放っています。



ご利用案内

- 開館時間 午前 10:00 ～午後 4:00
 休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始
 入館料 無料
 駐車場 市民文化センター駐車場をご利用ください。



見て、触れて、学ぶ「新居浜」の歩み

郷土資料室 ふるさとラボ

〒792-0023
 愛媛県新居浜市繁本町 8 番 65 号
 新居浜市市民文化センター本館 1 階内
 TEL・FAX 0897-34-7099 (直通)



郷土資料室 ふるさとラボ